

例会：【クローバー・リーフをもう一杯 今宵、謎解きバー「三号館」へ】



【幸せを呼ぶ四葉のタクシー】

目次

- 1：酒について
- 2：作品解題
- 3：まとめ

(作家情報・作品情報は省略)

## 1：酒の歴史

### 1-1：酒の起源

酒の歴史を遡ると狩猟文化の頃のシャーマニズムに至るといふ。朦朧とした意識状態、いわばトランス状態の中で神からの啓示を得るといふ脱魂型のシャーマニズムの中で酒は発見された。主なトランス状態に至る方法を挙げると、単調なリズムの歌や踊り、飢えや渴きから来る幻覚、苦行、そして幻覚剤の力を借りたものがある。そしてその幻覚剤の中の一つとして、酒があった。

農耕が始まり文明が始まってもシャーマニズムは残っていた。初期の文明では神官が神との交信の為、幻覚剤や酒を利用していったという。しかし、文明が進むにつれ酒は神との交信というよりも神への捧げものという色合いが強くなっていき、神官だけでなく一般民衆にも飲まれる様になっていった。

### 1-2：非日常から日常へ

人々の暮らしと段々結びついていった酒は嗜好品としての面が強くなっていった。最初、豊かな収穫に対する神への祈りや感謝・戦勝祈願などの儀式に際して飲むものであったのが、その後の地位や身分を取り外し行う無礼講の宴へと比重が増していった。神との一体感を強める人神共飲から人同士の連帯感を強める人人共飲へと移行していったのだ。

人人共飲の例としては主従の関係、血縁、地縁、社縁などやはり連帯感の強化を目的としたものが多く見られた。これらはまだほとんどが宴という決められた場所・時間・目的に即したものであった。柳田國男の言葉を借りれば「ハレ」の酒である。しかし時代が下るにつれ、酒造業の発達などにより日常的に飲む「ケ」の酒が広く提供されるようになっていった（ハレは年中行事・儀礼や祭りなどの非日常。ケは普段の生活、日常を指す）。

### 1-3：現代における酒

現在でも甘酒など「ハレ」の酒は残っているが世の中にある酒の殆どは専ら「ケ」の酒である。神との交信、神への儀礼という「ハレ」の意味の希薄化した酒は嗜好品として、ただ人々の楽しみの為だけに飲まれているのだろうか。吉田集而氏は「文明史におけるナルコティックス」においてこう述べている。

“現代社会は科学の時代である。合理の世界である。何ごとも理性的に考え、理性的に考え、行動しなければならない。すべては合理的、論理的に処理されている。しかし、人間存在としては、これで十分だとは思われない。この対極にある、感性的、情緒的、幻想的な混沌とした世界を必要としているのではないであろうか。人間この二つの世界のなかでバランスを取りながら生きている存在であると思われる。”

\*この章は『酒と日本文明』に所収されている「文明史におけるナルコティックス」を要約及び引用したものです。

## 2：作品解題

○クローバー・リーフをもう一杯

◇あらすじ

サークルのマドンナが消えた。一切の痕跡を残さず。  
同回生の遠近倫人は彼女の最後の姿を目撃していたが、  
彼女の乗り込んだタクシーは同時刻、別の場所にも存在していた……。

◇トーチカの推理

タクシーは双子だった。本物と偽物の二つが存在した。

◇真相

PM4:XX

大溝 四葉のタクシー〈京都 500 き 0112〉に乗車。

PM4:45

灰原 祇園四条にて大溝のタクシーに乗車。その数分後灰原のみ下車。

PM4:50

千宮寺 川端三条にて大溝のタクシーに乗車。

この際 5 分遅れているカルティエ A を見て乗車時刻を PM4:45 と誤認する。

コンパ会場にて正確な時刻を示すカルティエ B を千宮寺に渡す。

コンパ離脱後カルティエ A の針を直し灰原に渡す。

→双子だったのはタクシーではなく時計。

- ・「神酒」の幻覚作用
- ・トーチカ千葉県民説

○ジュリエットには早すぎる

◇あらすじ

GW のある日、遠近倫人は観劇中に不思議な体験をする。  
違う列に座っていた筈の思い人がいつの間にか隣にいたのだ！  
甘酸っぱい謎を胸に遠近は再びあのバーへとひた走る。  
真実を知った時、彼の下した決断とは？

◇トーチカの推理

隣が入れ替わったのではなく自分が入れ替わっていた。  
しかしそんな事をした会長たちの動機が分からない。

◇真相

鴨川をどり観劇は千宮寺・東横のトーチカ・青河に対するお膳立て。灰原などの他会員が声を掛けられていないのもその為。トーチカは列の端に居た「黄色の着物の夫人」を目印に1203席に座ったが、幕間にトイレに立った際、夫人が11列目の席と入れ替わった為、トーチカも間違っって11列目の1103席へと座り、結果として青河さんの隣に座ることになった。

- ・ソーマ・神酒
- ・長いお別れ

○ブルー・ラグーンに溺れそう

◇あらすじ

6月。遠近倫人は水族館で1人の謎めいた女性と出会う。  
イルカショーの途中、突如どこかへ走り去る彼女。  
彼女が見せた涙。そして消失の理由とは。

◇青河さんの推理

イルカスタジアムは何かの取引現場。取引の際に使用した何らかの通信機器が発した超音波によりイルカはジャンプに失敗。水族館内で犯罪が行われていると思った藤さんは怖くなりその場から逃げた。

◇真相

水族館で出会った女性、藤さんはイルカのインストラクターだった。トーチカたちが館内をいくら探しても見つからなかったのはその為。スタジアムから走り去ったのは意中の男性インストラクターが隣にいた女性インストラクターを庇ったから。また、キャップの男は藤さんの創作。ぶつかったのは小学生の男の子であったが、右目の視力が無い藤さんには誰にぶつかったか分からなかったので、咄嗟に嘘を吐いた。

- ・お神酒の中毒性
- ・トーチカの進歩

○ペイルライダーに魅入られて

◇あらすじ

祭りの夜。落下した少女。  
彼女が残した「……ぶさん」という謎の言葉。  
遠近倫人はサークルの先輩と共に捜査に乗り出すが……。

#### ◇トーチカの推理

青河さんが残した「……ぶさん」という言葉が指すのは同じサークルで射撃部「藪さん」。彼が近くの北観音山鉾から南観音山の上に居た青河さんを狙撃した。

#### ◇真相

青河さんは落下したのではなくニガヨモギ煙草の煙によって昏倒させられた。謎の言葉は「アブサン」。犯人は面浦。まず、市来にニセ青河と一緒に鉾の上層にいるように頼む。その際、単発の爆竹を渡しておき頃合いを見計らって爆発させる。トーチカが聞いた発砲音のようなものはこれ。その隙に自分は青河をニガヨモギで眠らせて彼女を抱えてトーチカの前に現れた。彼の目的は三号館に行くこと。トーチカは心から謎を不思議に思えない面浦の代わりに謎を抱かされた。

- ・ヨハネの黙示録 6-8
- ・モンティ・ホール問題

#### ○名無しのガフにうってつけの夜

#### ◇あらすじ

プレハブと共に焼けたはずの三号館が跡形もなく消えた。

捜査に乗り出した遠近倫人はかつて大学内にあったという「三合会」の話聞く。

神出鬼没のバー、そして「彼女」の正体。その秘密が今明かされる！

#### ◇真相

プレハブ棟に放火したのは御園生教授。トーチカは煤の付いた ON 状態のスイッチを見て、犯人は火をつける前に灯りを付ける必要があり、かつ停電の事を知らない（学内 ML に登録していない。携帯をもっていない）人物が犯人であると考えた。犯人の目的は過去の隠蔽。学生への締め付けを強化する改革派に移るには、かつて三合会という組織に所属していたという事実が邪魔だった。その為、自らがキープした自筆のボトルをこの世から消し去る必要があった。

- ・三号館の真実
- ・見えない教授見えてないトーチカ

### 3：まとめ

推理小説において煙草・薬などの幻覚剤が探偵の閃きの助けになっている物は珍しくはないし、バーテンや給仕といった酒に関わる人物が謎を解くというのも、よくある趣向だろう。だが、酒を飲むことで、飲んだ本人が事件を解決するというのは中々無かったのではないか。推理小説というジャンルにおいて、飲酒にはどちらかというとマイナスイメージが付きまとっている。これは理性による問題の解決、秩序の回復を主眼に置いた小説ジャンルとしては仕方のないことだとは思う。前後不覚では解けるものも解けない。1-3でも引いた通り、現代において酒は理性からの解放（現実逃避）を目的として飲まれることが多い。いわば「ケ」の酒としての飲まれ方である。推理小説でマイナスイメージを持たれているのはこちらだろう。

既に述べたとおり、酒は幻覚剤を起源として持ち、この作品において酒は一種の幻覚剤、啓示を得るためのものとして扱われている。三号館のバーテンダー蒼馬美希が作り出すカクテル。本人が「お神酒」と呼んでいるとおり、これはいわば「ハレ」の酒である。

4話目「ペイルライダーに魅入られて」において面浦一初が「三号館」にとって招かれざる客となったのは、啓示を与えるカクテル（＝儀礼の為のお神酒）を飲むことが手段ではなく目的と化してしまったからではなかろうか。「ハレ」の酒が「ケ」と酒となってしまうのである。

頻度が上がれば上がるほど、その行為の神性は失われていく。三号館が移動を繰り返す、営業していたのには客が慣れてしまい、非日常が日常になってしまうのを未然に防ぐ意味合いもあったのではなかろうか。

主人公、遠近倫人は破局が訪れる前に自らの力で謎を解いた。この先、彼らと三号館がどうなるかは神のみぞ知る、である。

### 参考文献

梅棹忠夫・吉田集而『酒と日本文明』弘文堂 平成12年9月15日 初版第一刷発行